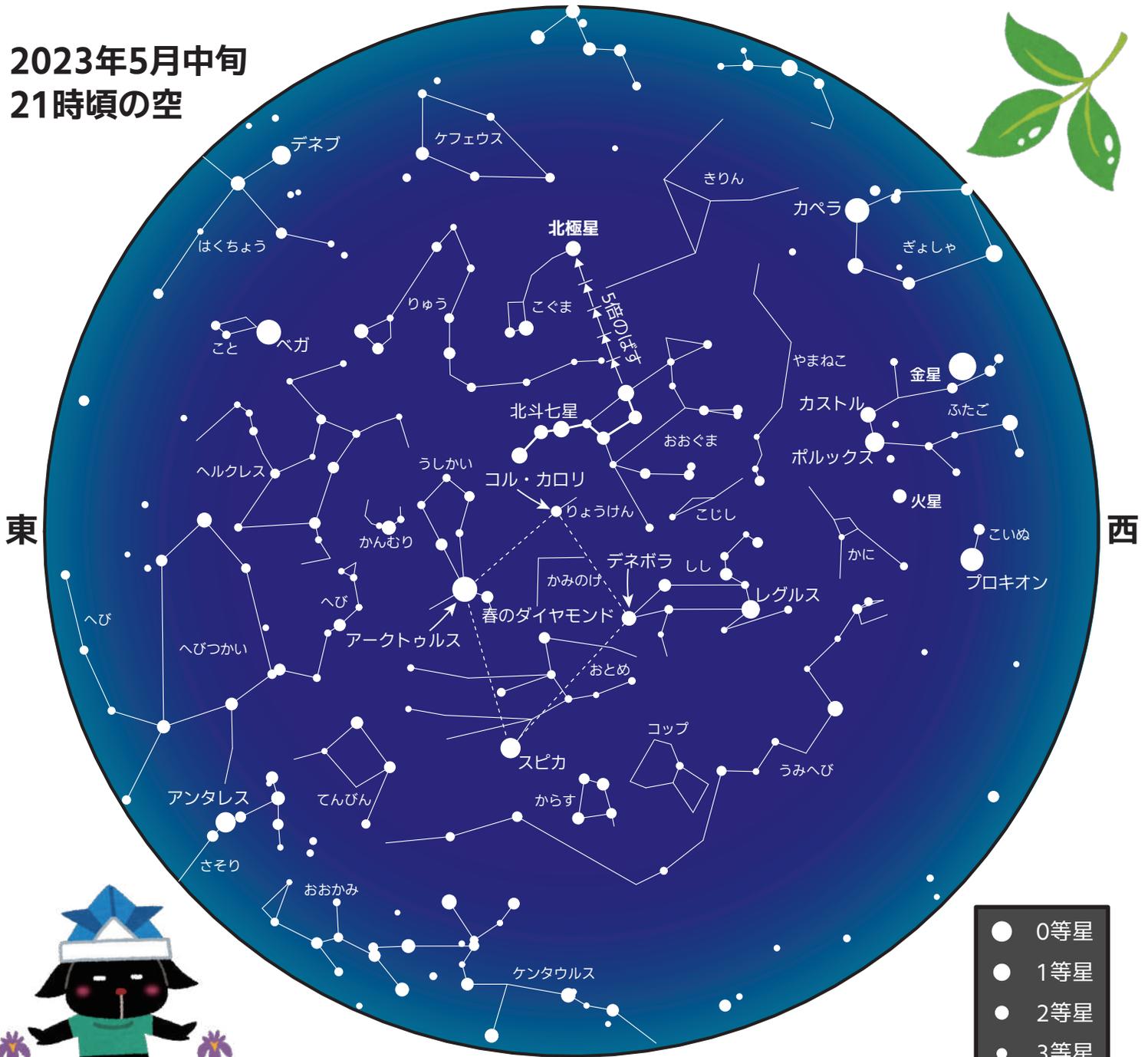


阿南市科学センター 5月の星空案内



北

2023年5月中旬
21時頃の空



南

夜空には冬のダイヤモンドという星並びがありますが、春にもダイヤモンドがあるのをご存知でしょうか。春のダイヤモンドはアークトゥルス(うしかい座、0.0等)、スピカ(おとめ座、1.0等)、デネボラ(しし座、2.1等)、コル・カロリ(りょうけん座、2.8等)の4つでできる星並びです。全て明るい一等星で作られる冬のダイヤモンドに比べ、やや控えめな輝きです。

春のダイヤモンドを探すには、まずアークトゥルスから見つけるのが良いでしょう。アークトゥルスは頭の真上近くにあり、黄色味を帯びたひとときわ明るい星です。続いてそこから南の空へと視線をうつすと、明るく白っぽい星であるスピカが見つかります。スピカからまた頭の真上近く、やや西寄りを見てみるとデネボラがあります。最後のひとつであるコル・カロリは難関です。ほぼ頭の真上、ちょうどデネボラと北斗七星の間あたりで慎重に輝いています。この4つの星たちをトランプのダイヤのような形に結ぶと、春のダイヤモンドのできあがりです。ぜひ、春のダイヤモンド探しにもチャレンジしてみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

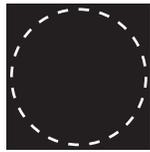
■ 5月の月の満ち欠けと惑星について



満月
6日



下弦
12日



新月
20日



上弦
28日

5月の天体観望会で月が見える日時は？



5/6(土) 21時の回後半で観察可能



5/27(土) 全ての回で観察可能

※19時の回は空が明るいので、20時・21時の回がおすすめ

水星：29日に西方最大離角となり、日の出前、東のごく低空に見える。【約0.6等】

金星：日没後、西の空に見え、夜遅くに沈む。【約-4.2等】

火星：日没後、西の空に見え、夜遅くに沈む。【約1.5等】

木星：日の出前、東のごく低空に見える。【約-2.1等】

土星：夜明け前、南東の空低くに見える。【約1.0等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ5/29ごろの明るさ。

観望会詳細はこちら！



5月3日～5日には
金星や月の観望会も実施予定！
詳しくは科学センターHPへ！



■ 今月オススメの天体 北斗七星・北極星

★旅先で北極星を見てみよう

5月はGWがあり、遠くへお出かけする方も多いかもかもしれません。その時、旅先でぜひ見ていただきたい星は北極星です。その理由は、北半球の場合、北極星の地面からの高さが星を観察している場所の緯度とほぼ等しくなるためです。例えば阿南市ならば北緯約35度なので、北極星も地面から約35度の高さで輝きます。さらに北に位置する北海道ならば北極星の高さも高く、逆に沖縄県ならば北極星は低くなります。

北極星を探すにはまず北斗七星を見つけましょう。北斗七星は21時頃、頭の真上よりも少し北よりに見える7つのひしゃくのような形が目印です。表面の星図も参考にしてみてください。北斗七星が見つけられたら、ひしゃく型の持ち手ではない方の先端の2つの星の間隔を5倍のばしてみましょう。その先でぼつんと光るやや明るい星が北極星です。

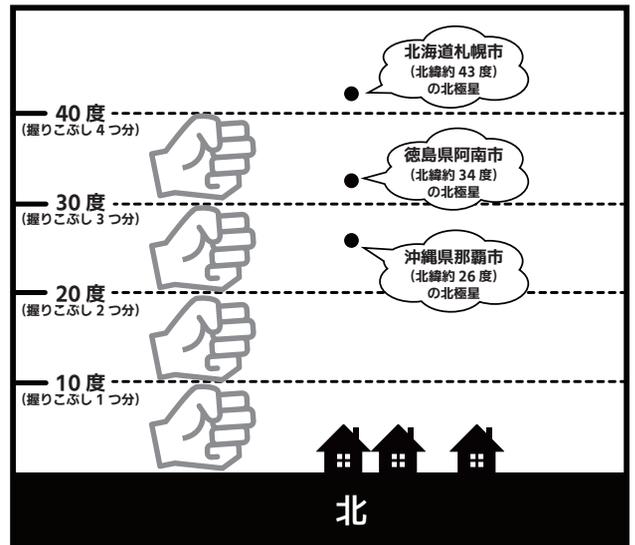


図. 札幌市、阿南市、那覇市での北極星の高さ

北極星が見つけられたら、北極星がどれくらいの高さに見えるのかも測ってみましょう。星の見える高さを測るには身体を使います。握りこぶしを縦にして、めいっぱいのばしましょう。この握りこぶし1つ分が空の高さ10度分にあたります。握りこぶしの小指を地平線の高さに合わせ、こぶしを重ねていくと、だいたいの高さを測ることができます。

筆者も実際に沖縄県で星を見る機会がありましたが、普段見ている高さよりも北極星が低いところで輝きとても感動しました。少しニッチな星空の楽しみ方とはなりますが、ぜひお試しください。



写真. 徳島県美波町(北緯約34度)にて撮影(A.Suzuki) 2023年4月28日午前3時から40分間撮影したものを比較明合成。線は地球の自転に伴う星の動きの軌跡。北極星は矢印の先。